

戦略2 農林水産戦略

現状・課題

[世界的な食料不安の顕在化]

世界的な人口の増加や地球温暖化の進行等を背景とした食料不安が顕在化する中、本県は広大な農地を有する食料供給県として、農業の生産力・収益力を維持・増大していくことが求められています。

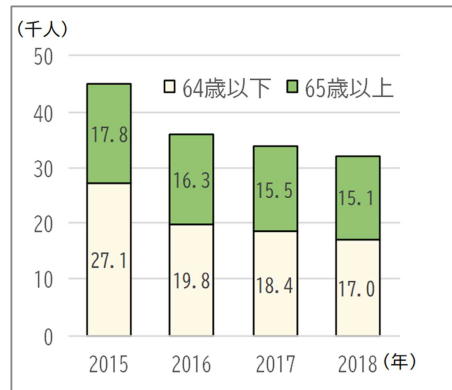
[労働力不足の深刻化]

農業の担い手や労働力不足が深刻化する中において、本県の広大な農地を維持・活用することが難しくなっています。

[環境負荷軽減への対応]

SDGs や環境を重視する国内外の動きが加速していくと見込まれる中、地球環境への負荷が小さく、持続性が高い環境保全型農業等の取組の拡大が求められています。

本県の基幹的農業従事者数*



*農業就業人口のうち、ふだん仕事として農業に従事している者の数

出典：県「秋田県農林水産業累年統計表」

[カーボンニュートラルの実現への貢献]

我が国の「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、森林による二酸化炭素の吸収や木材による炭素の貯蔵効果に期待が高まる中、豊富な森林資源を有する本県の役割が注目されています。



豊富な森林資源

[再造林の伸び悩み]

利用期を迎えたスギ人工林の皆伐が進む中において、将来の森林資源の確保をはじめ、森林の若返りによる二酸化炭素吸収量の向上や、多面的機能の持続的な発揮に不可欠な再造林の実施が、林業経営の採算性の低迷等を背景に伸び悩んでいます。



植栽作業

戦略2の
ねらい

食料供給県として、農業や水産業の生産力・収益力の維持・増大を図るとともに、森林の多面的機能の発揮と資源の循環利用の両立による林業・木材産業の成長産業化や、農山漁村の活性化を図ります。

戦略2が目指す“4年後の姿”

目指す姿1 農業の食料供給力の強化 (P54)

経営力の高い担い手が持続的・効率的な生産体制により、本県の広大な農地を最大限に活用して食料供給を担う農業の実現を目指します。

“四つの元気”

Res Sus Pre Div

<施策の方向性>

- ① 経営力の高い担い手と新規就農者の確保・育成 (P54)
- ② 持続可能で効率的な生産体制づくり (P54)
- ③ マーケットに対応した複合型生産構造への転換 (P55)
- ④ 水田のフル活用と需要に応じた米生産の促進 (P56)
- ⑤ 農産物のブランド化と流通・販売体制の整備 (P56)



目指す姿2 林業・木材産業の成長産業化 (P58)

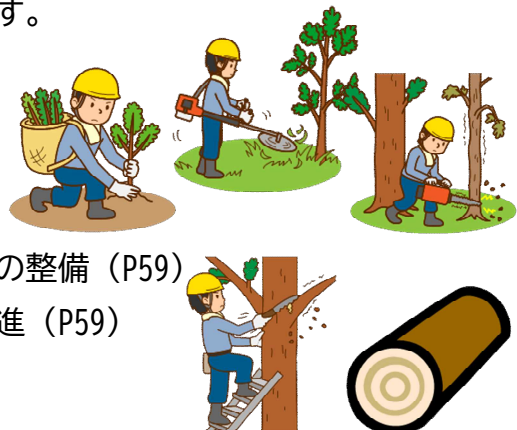
「伐って・使って・植える」という森林資源の循環利用により、林業・木材産業の成長産業化と森林の多面的機能の持続的な発揮の両立を目指します。

“四つの元気”

Res Sus Pre Div

<施策の方向性>

- ① 次代を担う人材の確保・育成 (P58)
- ② 再造林の促進 (P58)
- ③ 木材の利用の促進と生産・流通体制の整備 (P59)
- ④ 森林の有する多面的機能の発揮の促進 (P59)



現状・課題（続き）

〔 担い手不足の深刻化 〕

後継者不足や高齢化の進行等により、漁業就業者数は年々減少しており、水産業の労働力不足と活力低下が深刻化しています。

〔 海洋環境の変化による影響 〕

地球温暖化による気候変動に伴い、海洋環境が変化しており、本県においても水揚げされる魚種や漁獲量が毎年大きく変動しているため、これまでと同じ操業では、漁業者が安定した所得を確保することが難しくなっています。

〔 ロット不足による市場価格の低迷 〕

本県の水産物は、多種多様な魚介類が獲れるという強みがある一方で、ロットが小さいため、一般的な市場流通では低価格で取引される場合があります。



水揚げの様子

〔 農山漁村の活力低下 〕

条件が不利な中山間地域において、平場以上に人口減少・農林水産業の担い手不足が進行するなど、農山漁村の活力低下が懸念されています。

〔 農地や森林の荒廃 〕

深刻化する担い手・労働力不足を背景に、適正な管理が行われないことによる農地や森林の荒廃が懸念されており、里地里山の持つ多面的機能の発揮が難しくなっています。



農地の保全活動

戦略2が目指す“4年後の姿” (続き)

目指す姿3 水産業の持続的な発展 (P61)

若年層を中心に新規就業者が安定的に確保されるとともに、海洋環境の変化に対応した収益性の高い魚種の資源量が維持される中で、効率的・安定的な操業と販売力の強化を実現することにより、水産業の持続的な発展を目指します。

“四つの元気”



<施策の方向性>

- ① 次代を担う人材の確保・育成 (P61)
- ② つくり育てる漁業の推進 (P61)
- ③ 漁業生産の安定化と水産物のブランド化 (P62)
- ④ 漁港・漁場の整備 (P62)



トラフグ



目指す姿4 農山漁村の活性化 (P64)

中山間地域ならではの農業・農村ビジネスの振興や、半農半X (エックス) など新たな兼業スタイルの普及により、関係人口や定住人口の拡大が進むなど、多様な人材が活躍する農山漁村の実現を目指します。

“四つの元気”

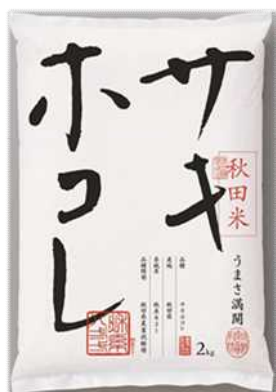


<施策の方向性>

- ① 中山間地域における特色ある農業の振興 (P64)
- ② 地域資源を生かした多様な農村ビジネスの促進 (P64)
- ③ 新たな兼業スタイルによる定住の促進 (P65)
- ④ 多面的機能を有する里地里山の保全 (P65)



目指す姿1 農業の食料供給力の強化



「サキホコレ」



ドローンによる農業散布



「秋田牛」

施策の方向性① 経営力の高い担い手と新規就農者の確保・育成



法人化・農地集約化による担い手の経営基盤の強化や、移住就農を含めた多様な新規就農者・女性農業者の確保・育成を進めるとともに、地域の雇用や農地の受け皿となる企業的な経営体の育成を進めます。

【主な取組】

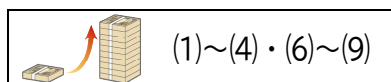
[経営力の高い担い手の確保・育成]

- (1) 農業経営の法人化・継承や集落営農の統合・連携の促進
- (2) 農地の集積・集約化による規模拡大や農業経営の複合化の促進
- (3) 外部人材を活用した実践的な研修等による企業的な経営体の育成
- (4) 地域をリードする女性農業者の育成と活躍できる環境づくり
- (5) 地域農業を支える農業団体の経営基盤の強化の促進

[多様なルートからの新規就農者等の確保・育成]

- (6) 就農相談やインターンシップ研修等による本県農業の魅力の発信
- (7) 研修制度の充実や農地確保への支援など新規就農者の受入体制の強化
- (8) 就農後の早期経営安定と定着に向けた総合的な立ち上がり支援
- (9) J A無料職業紹介所等による労働力の調整と労務管理の効率化の促進

◀ 選択・集中プロジェクト ▶



施策の方向性② 持続可能で効率的な生産体制づくり



効率的な生産体制の確立に向け、スマート農業の普及拡大や基盤整備を進めるとともに、地球環境への負荷が小さく、持続性が高い環境保全型農業等の取組の拡大を進めます。

【主な取組】

[次世代農業技術等の研究開発]

- (1) リモートセンシング等を活用した生産性向上技術の開発
- (2) 環境に配慮した防除・施肥技術の開発
- (3) スマート技術体系の現場実証

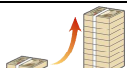


[スマート農業や環境保全型農業等の普及拡大]

- (4) 栽培管理データのデジタル化やスマート農機の導入の促進
- (5) 有機農業や減農薬・減化学肥料栽培等の普及拡大

[産地づくりやスマート農業を支える基盤整備等]

- (6) 水田の大区画化やスマート農業に対応した基盤整備の推進
- (7) 農業水利施設の保全管理やICT等を活用した水管理の推進

◀ 選択・集中プロジェクト ▶

| | | |
|---|---|---|
|  (1)~(7) |  (2)・(5) |  (1)・(3)・(4) |
|---|---|---|

施策の方向性③ マーケットに対応した複合型生産構造への転換



大規模生産拠点を核とした園芸・畜産の生産基盤の強化により、全国に名を馳せるトップブランド産地の形成を進めるなど、米偏重から脱却した収益性の高い複合型生産構造の確立を進めます。

【主な取組】

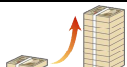
[全国に名を馳せる園芸産地づくり]

- (1) 大規模園芸拠点を核とした園芸産地の拡大
- (2) 中山間地域の連携による小ロットな品目等の広域産地の形成
- (3) 主要園芸品目の単収・品質向上の促進
- (4) 全国トップクラスの園芸品目の拡大とブランド力の強化
- (5) 災害に強く生産性の高い果樹産地づくりの促進

[収益性の高い畜産経営体の育成]

- (6) 大規模畜産団地等の整備による生産基盤の強化
- (7) 畜産経営のステップアップに向けた生産性の向上や効率化の促進
- (8) 耕畜連携による堆肥の活用や自給飼料の生産拡大の促進
- (9) 生産者等が主体となった秋田牛・比内地鶏のブランド力の強化への支援
- (10) 安全・安心な畜産物の生産に向けた防疫体制の強化

◀ 選択・集中プロジェクト ▶

| |
|--|
|  (1)~(10) |
|--|

施策の方向性④ 水田のフル活用と需要に応じた米生産の促進



新品種「サキホコレ」のブランド確立をはじめとした秋田米の戦略的な生産・販売を推進するとともに、水田のフル活用による収益性の高い水田農業を進めます。

【主な取組】

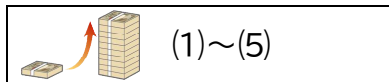
[サキホコレのブランド確立]

- (1) 高品質なサキホコレの安定供給に向けた生産体制の確立
- (2) サキホコレのブランド力を高める流通・販売対策と戦略的な情報発信

[戦略的な米生産と水田のフル活用]

- (3) 低コストな生産・流通体制の確立
- (4) 多様なニーズに対応した戦略的な秋田米の販売対策
- (5) 大豆や園芸品目等の戦略作物の生産拡大による水田のフル活用

◀ 選択・集中プロジェクト ▶



施策の方向性⑤ 農産物のブランド化と流通・販売体制の整備



多様化する国内外のニーズに対応した商品・産地づくりや流通体制の構築を図るとともに、6次産業化による県産農産物の付加価値の向上を進めます。

【主な取組】

[農産物のブランド化]

- (1) 実需者の多様なニーズに対応した県産農産物のマッチングの強化
- (2) 国内外に通用するトップブランド農産物の創出
- (3) 加工・業務用向けの商品づくりと販路拡大への支援
- (4) 県産農産物のブランド化に向けたプロモーションの展開

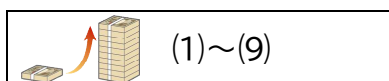
[輸出ルートの多角化と産地づくり]

- (5) 輸出企業と連携したルートの多角化による県産農産物の輸出の促進
- (6) 輸出に取り組む農業者への支援と産地づくりの促進
- (7) インバウンド需要の多い沖縄を拠点とした県産農産物のブランド化と流通の促進

[6次産業化の促進]

- (8) 異業種間連携による6次化商品の開発・販売の促進
- (9) 県産農産物の活用の拡大に向けた農業者の加工生産体制の強化

◀ 選択・集中プロジェクト ▶



指標

| 指標名 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | | | | 出典 |
|-------------------------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------------------------|
| | | 2019 | 2020 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | |
| ① 新規就農者数(自営・親元・雇用就農) | 人 | 241 | 252 | 280 | 290 | 300 | 310 | 県調べ |
| ② 農業法人数(認定農業者) | 法人 | 705 | 788 | 855 | 890 | 925 | 957 | 県調べ |
| ③ 農産物直売所の販売額 | 百万円 | 6,274 | 6,378 | 6,540 | 6,630 | 6,720 | 6,800 | 県調べ |
| ④ 実用化できる試験研究成果(累積) | 件 | 345 | 377 | 420 | 440 | 460 | 480 | 県調べ |
| ⑤ 環境保全型農業の取組面積 | ha | 1,519 | 4,204 | 4,285 | 4,325 | 4,366 | 4,406 | 県調べ |
| ⑥ ほ場整備面積(累積) | ha | 90,162 | 90,981 | 92,540 | 93,240 | 93,940 | 94,540 | 県調べ |
| ⑦ 主要園芸品目の系統販売額 | 億円 | 154 | 167 | 175 | 183 | 192 | 200 | J A「秋田県青果物生産販売計画書」 |
| ⑧ 秋田牛出荷頭数 | 頭 | 2,872 | 2,844 | 3,089 | 3,203 | 3,323 | 3,683 | 県調べ |
| ⑨ 秋田県産米のシェア | % | 6.07 | 6.29 | 5.95 | 6.05 | 6.14 | 6.24 | 農林水産省「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」 |
| ⑩ 水田への作物作付面積(主食用米を除く) | ha | 36,917 | 35,841 | 39,650 | 39,900 | 40,150 | 40,400 | 県調べ |
| ⑪ サキホコレの作付面積 | ha | — | — | 800 | 1,600 | 2,400 | 3,200 | 県調べ |
| ⑫ 農業者等と実需者とのマッチング新規成約件数 | 件 | 251 | 179 | 250 | 250 | 250 | 250 | 県調べ |
| ⑬ 農産物の輸出額 | 百万円 | 278 | 290 | 368 | 447 | 529 | 600 | 県調べ |

(モニタリング指標)

- ・ 農業産出額 出典：農林水産省「生産農業所得統計」
- ・ 稲作の10a当たり労働時間 出典：農林水産省「農業経営統計調査」
- ・ 米60kg当たりの生産費 出典：県調べ
- ・ 6次産業化事業体販売額 出典：農林水産省「6次産業化総合調査」

など

目指す姿2 林業・木材産業の成長産業化



間伐材搬出作業



秋田林業大学校の研修生



植栽作業

施策の方向性① 次代を担う人材の確保・育成



秋田林業大学校を核として、高度な技術を有した即戦力となる人材を育成するとともに、多様な人材が就業・定着しやすい環境整備を進めます。

【主な取組】

[即戦力となる人材の育成]

- (1) 実践的な研修による高い技術とマネジメント能力を有する人材の育成
- (2) 高性能林業機械やICT等を活用した新しい林業に対応できる人材の育成

[新規就業者の確保・育成]

- (3) 無料職業紹介所等を通じた林業従事者の確保
- (4) 移住を含めた多様な新規就業者の確保・育成
- (5) 就業者の定着に向けた労働環境の改善の促進

◀ 選択・集中プロジェクト ▶

| | | |
|---------|---------|-----|
| (1)~(5) | (1)~(5) | (2) |
|---------|---------|-----|

施策の方向性② 再造林の促進



森林経営管理の集約化や低コスト・省力造林技術の開発・普及により、再造林を促進します。

【主な取組】

[森林経営管理の集約化]

- (1) 林業経営体が伐採から再造林・保育までを継続して管理する仕組みの構築
- (2) 森林所有者に経営管理プランを提案できる人材の育成

[スマート林業など低コスト・省力造林技術の開発・普及]

- (3) 実践フィールドの活用等による低コスト・省力造林技術の普及
- (4) 優良な苗木の品種開発と安定生産体制の構築
- (5) 造林・保育分野へのスマート技術の導入の促進

◀ 選択・集中プロジェクト ▶

| | | |
|---------|---------|-----|
| (1)~(5) | (1)~(5) | (5) |
|---------|---------|-----|

施策の方向性③ 木材の利用の促進と生産・流通体制の整備



川上から川下まで一体となった木材総合加工産地の確立に向け、低コストで安定的な木材の生産・流通体制を構築するとともに、木材製品の加工・流通体制の強化や、国内外における県産材の販路拡大を進めます。

【主な取組】

[原木供給力と加工・流通体制の強化]

- (1) 路網整備と高性能林業機械を組み合わせた効率的な生産体制の構築
- (2) 原木需要の拡大に対応できる生産・流通システムの構築
- (3) 木質チップの安定供給に向けた取組や利用・製造体制の整備の促進
- (4) 多様なニーズに対応した高品質な木材製品の生産・供給体制の構築

[県産材の販路の拡大]

- (5) 住宅分野における外材や他県産材から県産材への転換の促進
- (6) 非住宅分野における一般流通材の活用の促進
- (7) 県内企業による製材品の輸出の促進

≪ 選択・集中プロジェクト ≫



施策の方向性④ 森林の有する多面的機能の発揮の促進



水源かん養機能など森林が持つ多面的な機能が十分に発揮されるよう、森林所有者に加え、ボランティアや市町村など多様な主体による森林整備を進めるとともに、森林病虫害対策や景観保全に向けた取組を促進し、森林の健全化を進めます。

【主な取組】

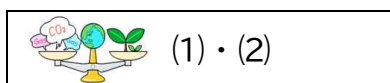
[多様な主体による健全な森林づくり]

- (1) 森林経営管理制度に基づく市町村が主体となった森林整備の促進
- (2) ボランティア団体や学校等が行う森林整備活動の促進

[森林病虫害対策と景観保全]

- (3) 市町村や森林組合等が行う森林病虫害対策の促進
- (4) 生活環境や景観の保全につながる里山林整備の促進

≪ 選択・集中プロジェクト ≫



指標

| 指標名 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | | | | 出典 |
|-----------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| | | 2019 | 2020 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | |
| ① 新規林業就業者数 | 人 | 146 | 122 | 134 | 134 | 134 | 134 | 県調べ |
| ② 再造林面積 | ha | 338 | 332 | 556 | 604 | 675 | 750 | 県調べ |
| ③ 素材生産量（燃料用含む） | 千m ³ | 1,583 | 1,425 | 1,710 | 1,750 | 1,870 | 1,900 | 県調べ |
| ④ スギ製品出荷量 | 千m ³ | 634 | 530 | 712 | 731 | 742 | 752 | 県調べ |
| ⑤ 森づくり活動等への参加者数 | 人 | 23,362 | 12,758 | 24,000 | 24,000 | 24,000 | 24,000 | 県調べ |

目指す姿3 水産業の持続的な発展



漁業スクールでの漁業体験



道の駅での漁師直売



蓄養殖の実証試験

施策の方向性① 次代を担う人材の確保・育成



新規就業者の確保に向け、漁業就業の啓発活動や各種研修制度の充実を図るとともに、経営能力の向上による中核的漁業者の育成や、技術継承の円滑化に向けた体制の整備を進めます。

【主な取組】

[新規就業者の確保・育成]

- (1) 高校生等を対象とした漁業就業の啓発活動の展開
- (2) 就業希望者を対象とした漁業体験や技術習得研修の実施

[漁業者の経営力の強化]

- (3) 経営管理能力の向上に向けた研修の実施
- (4) ICT等の新技術の導入に向けた実証試験や研修の実施

◀ 選択・集中プロジェクト ▶



施策の方向性② つくり育てる漁業の推進



環境の変化を見据えた収益性の高い魚種の種苗生産や、ハタハタをはじめとした重要魚介類の効果的な資源管理等による“つくり育てる漁業”を進めるとともに、漁場や生育環境の保全による内水面漁業の健全な振興を図ります。

【主な取組】

[収益性の高い魚種の増殖と効果的な資源管理]

- (1) キジハタなど収益性の高い魚種の種苗生産技術の開発
- (2) トラフグの種苗生産・放流と育成技術の開発
- (3) サケの種苗放流と新たな放流技術の開発
- (4) 資源管理の基礎となる科学的データの蓄積と分析
- (5) 漁業者が行うハタハタの自主的な資源管理の促進

[内水面漁業の振興]

(6) 種苗生産体制の維持に向けた内水面養殖業者の育成

◀ 選択・集中プロジェクト ▶



施策の方向性③ 漁業生産の安定化と水産物のブランド化



ICT等の導入などスマート漁業の普及拡大による操業の効率化や漁業生産の安定化に向けた蓄養殖の技術の確立を進めるとともに、漁業所得向上のための販売力の強化や水産物の高付加価値化を進めます。

【主な取組】

[スマート漁業の普及拡大と蓄養殖の技術確立]

- (1) 海況データ等に基づく漁場予測システムの展開
- (2) 漁獲情報のデジタル化に向けた機器導入等の促進
- (3) ブリ・サクラマス等の蓄養殖技術の開発
- (4) サーモン・クルマエビ・ギバサ等の蓄養殖の現地実証

[販売力の強化と水産物の高付加価値化]

- (5) 漁師直売の仕組みづくりとオンライン販売に向けた環境の整備
- (6) 新たな鮮度保持技術の導入や加工品開発の促進
- (7) 多様化する実需者ニーズに対応したマッチング活動等への支援

◀ 選択・集中プロジェクト ▶



施策の方向性④ 漁港・漁場の整備



海域の生産力を高める魚礁・藻場の造成・保全や天然漁場の環境改善等を進めるとともに、水産物の生産・流通の拠点となる漁港施設の機能強化と災害に強い漁港づくりを進めます。

【主な取組】

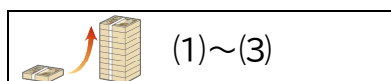
[海域の生産力の向上に向けた漁場整備]

- (1) 魚礁・増殖場の計画的な整備
- (2) 底質改善に向けた海底耕耘の実施
- (3) 漁港ストックの利活用に向けた施設の改良・更新

[漁港施設の機能強化と長寿命化]

- (4) 水産物の生産・流通機能や防災対応力の強化に向けた漁港施設の整備
- (5) 漁港施設の機能維持のための保全対策の実施

◀ 選択・集中プロジェクト ▶



指標

| 指標名 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | | | | 出典 |
|-----------------------------------|-----|------|------|------|------|------|-------|---------------|
| | | 2019 | 2020 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | |
| ① 新規漁業就業者数 (60歳未満) | 人 | 11 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 県調べ |
| ② 漁業者1人当たりの つくり育てる漁業対 象種生産額 | 千円 | 555 | 657 | 883 | 921 | 960 | 1,000 | 県漁業協同組 合調べ |
| ③ 蓄養殖等に取り組む 漁業経営体数(累積) | 経営体 | 10 | 17 | 52 | 64 | 77 | 90 | 県調べ |
| ④ 安全けい船岸充足率 | % | 61 | 61 | 61 | 62 | 63 | 64 | 県調べ |

目指す姿4 農山漁村の活性化



農家民泊



里地里山の風景（安全寺）



半農半X

施策の方向性① 中山間地域における特色ある農業の振興

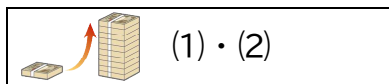


条件が不利な中山間地域においても一定の農業所得を確保できるよう、地域資源を活用した地域特産物のブランド化や、中山間地域の連携による広域産地化等を進めます。

【主な取組】

- (1) 中山間地域ならではのキラリと光る地域特産物のブランド化
- (2) 中山間地域の連携による小ロットな品目等の広域産地の形成

◀ 選択・集中プロジェクト ▶



施策の方向性② 地域資源を生かした多様な農村ビジネスの促進



中山間地域の農業に観光や教育等の他分野を組み合わせることにより、新たな農村ビジネスの創出と交流人口の拡大を進めます。

【主な取組】

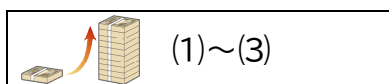
[新ビジネスの創出]

- (1) 農業体験を核とした滞在型旅行など農村ならではのビジネスの創出
- (2) 農家レストランや加工品開発など食を起点としたビジネスの創出

[交流人口の拡大]

- (3) 農家民宿等におけるワーケーション等の受入体制の整備
- (4) 食や伝統文化を生かした都市農村交流等の地域づくり活動の展開

◀ 選択・集中プロジェクト ▶



施策の方向性③ 新たな兼業スタイルによる定住の促進



「田園回帰」の流れを捉えて移住就農の拡大を進めるとともに、半農半X（エックス）など新たな兼業スタイルの普及により、農山漁村地域への定住を促進します。

【主な取組】

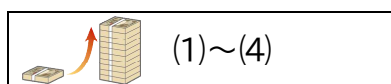
[移住就農の拡大]

- (1) 就農相談やインターンシップ研修等による本県農業の魅力の発信
- (2) 研修制度の充実や農地確保への支援など新規就農者の受入体制の強化
- (3) 就農後の早期経営安定と定着へ向けた総合的な立ち上がり支援

[半農半Xの普及拡大]

- (4) 半農半Xなど多様なライフスタイルの実現に向けた体制づくり
- (5) 地域活性化に向けた活動を支援する人材や運営組織の育成

◀ 選択・集中プロジェクト ▶



施策の方向性④ 多面的機能を有する里地里山の保全



里地里山の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、地域の共同活動等による里地里山の適切な保安全管理を進めます。

【主な取組】

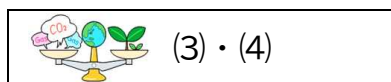
[農地の保全と活用]

- (1) 農地や農業用施設の適切な管理に向けた共同活動や営農継続の促進
- (2) 遊休農地の発生防止と再生利用の促進

[多様な主体による健全な森林づくり]

- (3) 森林経営管理制度に基づく市町村が主体となった森林整備の促進
- (4) ボランティア団体や学校等が行う森林整備活動の促進

◀ 選択・集中プロジェクト ▶



指標

| 指標名 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | | | | 出典 |
|------------------------|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----|
| | | 2019 | 2020 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | |
| ① 中山間地域ブランド特産物数（累積） | 件 | — | — | 3 | 6 | 9 | 12 | 県調べ |
| ② 新たな農村ビジネス取組数（累積） | 地域 | — | — | 3 | 6 | 9 | 12 | 県調べ |
| ③ 農村関係人口数 | 人 | 9,887 | 6,518 | 8,800 | 9,600 | 10,400 | 11,200 | 県調べ |
| ④ 農村地域づくり活動サポート人材数（累積） | 人 | — | — | 10 | 20 | 30 | 40 | 県調べ |
| ⑤ 農地保全活動面積 | ha | 102,297 | 101,908 | 104,400 | 104,400 | 104,400 | 104,400 | 県調べ |

